

第2回 中等日本語教育授業教案コンテスト

教 案

【注意事項】

※項目は全て埋めてください。

※実際のクラスを想定しながら、学生に対する指示や説明、やり取りの言葉など詳しく書いてください。

※授業時間は、1コマ 40～45 分です。

※教案は日本語で書いてください。

使用教科書： <u>標準日本語(初級)</u> 第 <u>17</u> 課 (全 <u>7</u> コマの内、本教案は <u>2</u> コマ目) (例) 第5課の授業を7回に分けて、この授業を3回目にする場合 ⇒第5課 全7コマの内、本教案は3コマ目 1コマ <u>45</u> 分 【要選択】(<u>高校</u> ・ 中学) <u>1</u> 年 クラスの人数 <u>20</u> 人 【要選択】 第一外国語 <u>第二外国語</u> 課外活動 その他 () 日本語学習歴 <u>1</u> 年				
この授業の到達目標 ①言語能力：「たい」という文法が分かって、言えて、使えるようになる。 ②文化意識：日本の文化「七夕」が分かって、自分の願い事が書けるようになる。 ③思考力：したいことが伝えられて、中日「七夕」文化の区別が理解できる。 ④学習能力：自分で考える力が向上し、協働学習の意識が高まる。				
この授業の学習項目 ① 文法： 名詞＋を＋動詞たいです ②応用活動：七夕の願い事をしましょう！				
時間	段階 (授業の 流れ)	練習・活動の内容 (詳しく書いてください)	練習・活動の目的	注意点・ 使用する もの
3分 3/45	目標 提示	今日の目標は「たい」という文法が分かって、言えて、使えるようになることと、日本の文化「七夕」が分かって、自分の願い事が書けるようになることの二つです。	目標をはっきりと提示することによって、生徒が意識を持って授業に臨むことができる。	PPT
12分	文法 導入	(ppt で写真を見せながら) おなかが すきました。  T: 私は朝ごはんを食べませんでした。昼ごはんもまだです。 <u>(上の絵を見せて)</u> おなかが空きました。おにぎりを食べます。欲しいです。私はおにぎりを食	絵とジェスチャーで導入して、生徒の関心を引きつける。	

15/45		べたいです。 おにぎりを たべたいです。  S: <u>(上の絵を見ながら読む)</u> おにぎりを食べたいです。(板書) のどが かわきました。  T: <u>(上の絵を見せて)</u> 暑いです、喉が乾きました。私は？ S: 略 (板書) T: 今夏の服が安いです。私は？ S: 略 (板書) T: 今日はたくさん働きました。家へ？ S: 略 (板書) T: 今週たくさん働きました。今日は日曜日です。今日はうちで？ S: 略 (板書) ●板書: (1) おにぎりを食べたいです。 (2) 水を飲みたいです。 (3) 服を買いたいです。 (4) 帰りたいです。 (5) 休みたいです/寝たいです。 ●生徒に板書した内容に基づいて、この文法のルールを発見させる。 (何人かに発表してもらってから、教師が補充し、文法の形を固定する)	何度も繰り返し質問を通して、生徒が文法ルールを考えなくても、意味が分かればすばやく答えが言える。 生徒に文法のルールを考えさせて、自ら発見することで印象が深くなり、記憶にも残りやすい。	注意点： 教師からは文法のルールを直接に言わないように注意する。生徒自身に気づかせることが大切だ。 生徒から口頭で出てきたものを板書すること。
--------------	--	--	--	---

15 分 30/45	基本練習	●練習 1：文作り（後件作成） （「たい」という文型を使って、文を完成する。） （ペアで練習）： （1）本が好きですから、_____。 （2）旅行が好きですから、_____。 （3）明日は休みですから、_____。 ●練習 2：「いつ/誰と/何を/どこ+たいですか」で、生徒の願望をたずねる。 4 人グループで練習（グループ活動）： （1）いつ日本へ行きたいですか。 （2）誰と友達になりたいですか。 （3）日本で何をしたいですか。 （4）夏休みどこへ行きたいですか。 何グループかをみんなの前で発表する。	文法が分かる ≠ 文法が使える。使えるようになるには、「練習」が必要だ。 アウトプット練習： 練習 1: 理解してさらに使える段階へ。 （実際の場面での使い方がわかる。） ↓ 練習 2: 「たい」がよく使われる場面を練習する。	生徒に提示：答えは自分で考えて答える＝答えが 1 つではない。
12 分 42/45	応用練習	●活動内容：七夕の短冊飾りを作る。  1、七夕に関する写真を生徒に見せながら、日本の七夕について簡単に紹介する。 中国の「七夕」と日本の「七夕」の区別は何ですか？ （生徒：4 人グループになってお互いに話し合い、意見交換した後で、答えを発表する。）（グループ活動） 2、準備しておいた短冊を生徒に配って、それぞれ日本語で自分の願いを書かせる。	「中国と日本の同じところ、違うところ」を発見すること、自分で気づくことを通して、日本の文化だけでなく、中国の文化も再発見できる。 協働学習（全員参加）：日本語能力が低い生徒の中で、中国の「七夕」文化に詳しい生徒もいる。このように、クラス全員がグループ活動に参加できて、クラス全体を盛り上げる。	きれいな短冊を 20 枚用意しておく。
3 分 45/45	宿題	みんな一緒に竹か笹に願い事の紙を吊るし、七夕まで飾っておく。	協働活動	

工夫点・アピールポイント（どの部分に力を入れて作成したか、どの部分に注目してほしいか など）

1、教科書の中で、「七夕」についての紹介がないが、教師として『課程標準』の中の「文化意識」を理解し、意識して授業をすることで生徒の文化意識を育てられるのではないのでしょうか。また、中国の「七夕」と日本の「七夕」の区別を生徒に発見させて、生徒が多文化を尊重し、自国文化への理解を深め自己同一性も深められる。

2、文法が分かる≠文法が使える。使えるようになるには、「練習」が必要だ。生徒に「聞く、話す、読む、書く」四技能を身につけさせるために、いくつかの段階練習を設定した。

意味がわかればいい。（導入）



理解してさらに使える段階へ。（基本練習）



したいことが伝えられて、自分の願い事が書けるようになる。（応用練習）

3、たまには、つまらない「聞く、話す、読む、書く」など具体的な宿題ではなく、例えば、今回の「みんな一緒に竹か笹に願い事の紙を吊るし、七夕まで飾っておく。」という宿題を設定して、生徒みんな一緒に協働活動を通して、日本語の勉強が楽しくなれるし、生徒間も仲良くなれる。

研修会でどんなことを学び、どのように授業に活かしたか。

（例：〇〇の講座で●●について学び、授業では△△の部分に取り入れた など）

1、2019年春の教師研修会で藤井舞先生の『「文法の教え方」を考える』という講座を聞いていただいて、「ガニエの9教授事象」からヒントを得て、「新しい学習内容を提示する（目標提示）、新しい学習内容を提示する（導入）、練習をさせる（基本練習、応用練習）、学習したことを他の場面にも活かせるように促す（七夕の願い事を書く）」や「学習者にルールを発見させる（気づきは習得の第一歩）」や「答えが1つではない（生徒が自分で考える力を鍛える）」などを今回の授業に生かした。

2、2018年夏と2019年春の教師研修会で林洪先生と李家祥先生の「核心素養シリーズ講座」を聞いていただいて、「语言能力，文化意識，思维品质，学习能力」についての理解が深まった。それに基づいて、今回の授業の「到達目標」を設定した。また、中国の「七夕」と日本の「七夕」の異同を生徒に比べさせて、生徒に多文化を尊重し、自国文化を他人に紹介する文化意識を育てる。

3、2019年春の教師研修会で高崎三千代先生は公開授業をコメントする時、「全員参加」という点を高く評価した。だから、今回の授業は、できるだけ生徒たちの言語能力が異なる点に配慮し、クラス全体になげかけて、学習タスクを設定した。

※2 ページ以上になってもいいですが、項目は変更しないでください。